飼料作物病害虫防除指針

目　　次

飼料作物改正事項一覧表 2
1 掲載農薬一覧 …… 3
2 防除法
(1) イネ科牧草 …… 3
(2) マメ科牧草 …… 4
(3) 飼料用とうもろこし（青刈り・子実）…… 4
(4) 飼料用とうもろこし（子実）…… 4

飼料作物改正事項一覧表

作物名	病害虫名	改正事項	改正内容
飼料用とうもろこし（青刈り・子実）	ネキリムシ類	防　除　方　法 掲　載　農　薬　一　覧	ルミビアＦＳを新規採用

1　掲載農薬一覧

作物名	農薬名	IRACコード	有効成分	適用病害虫名						
				ムギダニ	ハリガネムシ類	タネバエ	ネキリムシ類	アワノメイガ	アワヨトウ	ツマジロクサヨトウ
牧草 イネ科	スミチオン乳剤	1B	ＭＥＰ	○					○	
飼料用とうもろこし（青刈り・子実）	ダイアジノン粒剤５	1B	ダイアジノン				※			
	デルフィン顆粒水和剤	11A	ＢＴ(生菌)							○
	チューレックス顆粒水和剤	11A	ＢＴ(生菌)							○
	ジャックポット顆粒水和剤	11A	ＢＴ(生菌)							○
	パダンＳＧ水溶剤	14	カルタップ					○		○
	クルーザーＦＳ３０	4A	チアメトキサム		○	○				
	ルミビアＦＳ	28	クロラントラニリプロール				○			○
飼料用とうもろこし（子実）	トレボン乳剤	3A	エトフェンプロックス						○	
	トレボンＥＷ	3A	エトフェンプロックス						○	
	アクセルフロアブル	22B	メタフルミゾン					○		○
	プレバソンプロアブル５	28	クロラントラニリプロール					○		○

※ダイアジノン粒剤５は「タマナヤガ」での登録、「ネキリムシ類」は子実のみ登録がある。

2　防除方法

(1)　イネ科牧草

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
すじ葉枯病・さび病・雲形病・炭そ病・葉腐病 は種期 生育中	[耕種的防除法] 1　マメ科牧草を混播する。 2　肥培管理は適正に行う(窒素肥料に片寄らない) 3　刈取時期が遅れないようにする。	○ 激発した場合は早急に刈り取る。
雪腐病 は種前 は種期	[耕種的防除法] 1　窒素は多用せず、堆肥及び燐酸、加里肥料を十分に施用する。 2　耐病性品種を用いる。 3　適期には種し、越冬前に十分株をつくる。 4　春先の消雪を早め、排水をよくする。	
アワヨトウ 第１回目 ６月下旬～７月上 第２回目 ８月上旬～９月上旬	[薬剤による防除法] 1　スミチオン乳剤を散布する。 [耕種的防除法] 1　牧草のは種は春播きを避け、秋播きとする。 2　窒素肥料や堆肥の多量施用を避ける。	○ アワヨトウは老齢になると効果が劣るので早期発見に努め、若齢のうちに防除する。 ○ 大量発生の兆候がある場合は早めに収穫する。
ムギダニ 第１回目 ４月上旬～５月中 **第２回目** 10月中旬～11月下旬	[薬剤による防除法] 1　発生密度が高い場合にスミチオン乳剤を散布する。	○ ムギダニの活動が活発な曇天の日や夕方に散布する。 ○ 散布後、２週間以上経過してから放牧、採草を行う。
コガネムシ幼虫 ８月～９月	[耕種的防除法] 1　牧草が枯死し、草地の表面が簡単にめくれるなどの被害が見られた場合は、被害箇所にロータリーハローを丁寧にかけ、幼虫密度をなるべく減らした上で草地更新を行う。	○ ３年目幼虫（スジコガネ）150頭／㎡で剥離が見られ始める。 ○ マメ科牧草も食害を受ける。 ○ 牧草のは種期が遅れないように作業する。 ○ ロータリーハローの回数を増やすほど、幼虫数は減少する。

(2)　マメ科牧草(クローバ類)

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
菌核病	［耕種的防除法］ 1　多発地帯では、春季は種に努める。 2　秋季は種の場合は、根雪前の生育が７葉期以上になるように、９月上旬頃までには種を完了する。	
白絹病・汚斑病 **黒点病・ウイルス病** は種期 収穫時	［耕種的防除法］ 1　排水のよい所に栽培する。 2　ウイルス病の蔓延を少なくするためには、イネ科牧草との混播が効果的である。 3　適期に刈り取り、過繁茂にならないようにする。また被害茎葉を残さないようにする。	
葉腐病・さび病 生育中	［耕種的防除法］ 1　肥培管理は適正に行う。	
ウリハムシモドキ ５月下旬～ ６月下旬	［耕種的防除法］ 1　草地のマメ科率が高く、草勢不良な場合特に多発するので過放牧、刈り取り過剰を避け、肥培管理を適切に行う。	
ナメクジ類 ５月～７月	［耕種的防除法］ 1　刈取回数を増やして乾燥をうながす。	

(3)　飼料用とうもろこし（青刈り・子実）

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
黒穂病 は種前 出穂後	［耕種的防除法］ 1　連作を避ける。 2　発病株は速やかに抜き取って処分するか、土中深く埋める。	○ 病原菌は堆肥又は飼料にしても完全に死滅しないので、堆肥や飼料に用いないこと。
すす紋病 **ごま葉枯病** は種前	［耕種的防除法］ 1　連作を避ける。 2　耐病性品種を栽培する。	
すじ萎縮病 は種前 は種期	［耕種的防除法］ 1　前年に発生を認めたほ場では作付をしない。 2　媒介昆虫であるヒメトビウンカの成虫発生時期を避けて、５月３～５半旬頃には種する。	○ ヒメトビウンカの水田周辺における第１回成虫発生最盛期は、４月下旬～５月上・中旬である。
ハリガネムシ類 は種前	［耕種的防除法］ 1　連作を避ける。 ［薬剤による防除］ 1　クルーザーＦＳ30を乾燥種子に塗沫処理する。	○ 牧草跡地で発生しやすい。 ○ キヒゲン（忌避剤）などの粉衣剤を併用する場合は、クルーザーＦＳ30を先に処理する。
ネキリムシ類 は種前 出芽時 発生初期	［耕種的防除法］ 1　ほ場を適正に管理し雑草を抑える。 ［薬剤による防除］ 1　ルミビアＦＳを乾燥種子に塗抹処理する。 2　ダイアジノン粒剤５を土壌表面に散布する。 3　ダイアジノン粒剤５を散布する。	
アワノメイガ 雄穂抽出始～絹糸抽出期	［薬剤による防除］ 1　パダンＳＧ水溶剤を散布する。 プレバソンプロアブル５を散布する。 アクセルプロアブルを散布する。	○ 農薬散布は、幼虫食入防止を狙い、第１回目は幼虫のよく集まる生長点、第２回目は雌穂にも十分散布する。
タネバエ は種前	［薬剤による防除］ 1　クルーザーＦＳ30を乾燥種子に塗沫処理する。	○ キヒゲン（忌避剤）などの粉衣剤を併用する場合は、クルーザーＦＳ30を先に処理する。
ツマジロクサヨトウ は種前 発生初期	［薬剤による防除］ 1　ルミビアＦＳを乾燥種子に塗抹処理する。 2　掲載農薬一覧にある薬剤のいずれかを散布する。	○ 若齢幼虫に対して実用性が確認されている。

(4)　飼料用とうもろこし（子実）

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
アワヨトウ 発生初期	［薬剤による防除］ 1　トレボン乳剤又はトレボンＥＷを散布する。	○ 若中齢幼虫に対して実用性が確認されている。
アワノメイガ **ツマジロクサヨトウ** 発生初期	［薬剤による防除］ 1　掲載農薬一覧にある薬剤のいずれかを散布す	